はまなす句会（二月二十一日）（百三十一回）

かすれゆく記憶のごとく残る雪　　圭二

灯ともせば愁いくっきり雛の顔　　菊枝

張り詰めし空できらめく冬の星　　由美子

春めくや野山いよいよ和らいで　　久子

白と銀峡が織りなす雪模様　　玲子

日脚伸ぶ外のぬくもり感じつつ　　則子